

R e C A A P 1 0 周年記念ハイレベル会合
黄川田外務大臣政務官発言

各国代表団，御来賓の皆さま，

1 私は日本政府を代表し，本日この特別会合の機会に，「開かれ安定した海洋」と航行の自由と安全の確保に対する我が国の揺るぎないコミットメントについてお話しできることを光栄に思います。

2 また，私は，初めに研究者，それから政治家として，海洋問題に携わってきましたので，今日，皆さまと共に R e C A A P 1 0 周年を祝うことができ，大変嬉しく思います。

3 さて，昨日の安倍総理大臣の祝賀メッセージの中でも強調されていたとおり，「法の支配」が貫徹する世界・人類の公共財として，「開かれ安定した海洋」を保ち続けることこそ，私たちに共通の使命であり，世界共通の利益です。安倍総理は，我が国として，R e C A A P ・ I S C に対する支援を続けるとともに，航行の自由と安全を保全しようと努めるアジアの沿岸国の取組に対する支援を惜しまないことを明確にしております。

4 このような観点に基づき，日本政府はアジアにおける海賊対策を支えてきました。増加する海賊と海上武装強盗への対応のため，2000年，2001年と一連の画期的な国際会議を東京でホストした後，日本は2001年のASEAN+3首脳会議において，海賊対策のための地域協力協定の作成を提唱しました。そしてASEAN加盟国，バングラデシュ，中国，インド，韓国，スリランカの専門家が協定を作成するために集いました。協定はR e C A A P として2004年に最終化され，2006年に発効してシンガポールに情報共有センターを設立しました。その当初から，日本は事務局長と事務局長補を派遣するとともに，主要なドナーとして能力構築活動への財政支援を提供することで，R e C A A P ・ I S C の活動を支援してきました。

5 R e C A A P ・ I S C への支援に加えて，我が国は巡視艇の供与や技術協力，人材育成を通じて，アジアの沿岸国の海上保安機関の能力の向上を支援しています。昨年，海上保安大学校は，政策研究大学院大学および国際協力機構，日本財団との共同で，アジア諸国からの若手海上保安機関幹部職員向けに世界初となる海上保安政策に関する修士課程の提供を開始したところです。

6 これらの取組はASEAN諸国や他の国々と緊密に協力しつつ、海における「法の支配」を確保しようとする我が国の決意の具体的な表れです。それは、まさに日本が掲げる「積極的平和主義」を具体化であります。実際、この政策に対しては、これまでASEAN諸国を始めとする多くの国々から、力強い賛意が得られてきています。本年、日本はG7の議長国として、この分野における国際的議論をリードしていきます。

7 最後に、私は日本政府を代表し、改めてアジアの海賊・海上武装強盗対策に取り組んできた遠藤事務局長をはじめとするISC事務局と本日の会議にも参加されている総務各位の努力に深甚なる敬意を表するとともに、日本政府のReCAAPに対する揺るぎない支援を表明したいと思います。ReCAAPが総務会と新しく任命された黒木次期事務局長の下で、更にその活動を強化することを期待しています。

御静聴ありがとうございました。

(了)